

可燃ごみ、埋立ごみの削減 「わたふとん」「小型家電」のリサイクル



●わたふとん

家庭で不要になったわたふとんは、1月から役場と環境プラザで回収を始めています。初日から多くの「わたふとん」が持ち込まれ、1月から6月までの間に2,730 kg回収できました。

●小型家電

家庭で不要になった小型家電は、役場ほか町内各所に回収BOXを設置して回収するほか、埋立ごみの中から分別回収し、リサイクルしています。3月から6月までの4カ月間に9,796 kg回収できました。

役場の回収ボックスは庁舎1階ロビーにありますので、今後ご協力をお願いします。

半年で53キロの生ごみを消滅

「キエー口」実証実験中間報告

キエー口は半透明の波板のフタにより、日差しが当たり中に雨が入らない構造になっているため、通気性が良く、土の表面はサラサラ！ 毎日かき混ぜていると、虫の発生や嫌な臭いもありません。キエー口を使うと、生ごみを水切りせずそのまま投入すれば良いので、重い生ごみをごみ集積場所まで出しに行く手間が省けるほか、今まで出していた可燃ごみの量が削減。可燃ごみ指定袋の大きさも小さい袋で済むようになるので、家計の負担を減らすことにもつながります。

町では、昨年11月から実証実験に取り組み、半年間で約53キロの生ごみを投入しました。当初、生ごみの消滅には2～3週間ほどかかりました。これは、気温の低い時期に実験を始め、微生物の動きも悪かったためと思われます。しかし6月時点では、5日ほどで生ごみは消滅するようになりました。堆肥の量も増えていません。ただし、卵の殻などの分解は苦手なようで、消滅するのに時間がかかっています。

微生物は生きていますので、酸素が必要です。そのため、土を混ぜることが必要になります。忙しいからと手を抜いていると、虫が発生したり、臭いが出たりすることもありました。キエー口の世話をしていると、まるでペットのように感じられるようになり、生ごみ(エサ)を投入して混ぜるのが楽しくなるのが不思議です。

11月まで実験は続きますので、夏から秋にかけての状況についてもレポートします。



キエー口って？

木箱に黒土を入れたもので、その土に生ごみを埋めておくと、土の中の微生物の働きにより生ごみが分解されて消滅するコンポストです。